



66期生 戴帽式



66期生44名の戴帽式が行われました。戴帽式とはヨーロッパにおいて修道女がいばらの冠をかぶり、誓いをたてたことに由来すると言われており、ナースキャップは看護師のシンボル、キャンドルの灯りはクリミア戦争での病院のランプを意味し、ナイチンゲールの献身的な看護の精神を表すと言われています。(諸説あります)

現在は衛生面等の理由でナースキャップは廃止されていますが、当校の戴帽式では看護師を目指すものとしての職業に対する意識を高め、またその責任の重さを自覚し決意をあらたにするためにナースキャップを着用しています。





誓いの言葉
私たち66期生は、看護師になるための
自覚を持ち、仲間と共に、
日々の学習に精一杯取り組みます。
今まで支えてくださった皆様に、
感謝の気持ちを忘れず、患者様に
笑顔で寄り添う理想の看護師と
なることを誓います。



戴帽式を終えて新たな決意を聞いてみました。

誓いの言葉にあるように患者様に笑顔で寄り添うこと、1人1人に向き合うこと、さらに患者様だけではなくその方の家族も含めて支援を行えるような看護師になろうと思いました。

患者さんと信頼関係を築いて、患者さんの思いを尊重して寄り添える看護師になるためにも、勉強を頑張って知識・技術をしっかり身につけて対応できるようになりたいです。

戴帽式を終えて看護師になるという自覚を改めて持つことができたと思います。知識を持つことが1番大切だと思うので、学習面で精一杯頑張るようにしたいと思いました。

戴帽式を終えて、看護師になる者としての自覚と責任感が芽生えてきました。

戴帽式を終え、これからは実習が多く入ってくるため、患者様1人1人と関わることのできる時間を大切にして、看護師になるための実際の技術を身につけていけるよう、新たな気持ちで精一杯取り組んでいきたいです。

患者様に信頼してもらえるように、看護援助の技術、病気などの知識をしっかりと身につけていきたい。

看護師に少しずつ近づいてきているということを変えて実感し、日々の学習により力を入れていきたいと感じました。

看護師という職業の責任の重さや大変さを改めて理解し、どうして自分が看護師になりたいと思ったのか初心にかえり、これからの学習や実習に取り組んでいきたいと思いました。

